

平成29年度 芸術科：音楽 I

| | | | | |
|---------|--|--|------------------------------------|-----------------------------|
| コース・単位数 | 1年：全コース（2単位） | | | |
| 学習の到達目標 | 節度を持ちながら楽しく実技に臨み、基本的な楽典を理解する。 | | | |
| 教科書 | 音楽 I 改訂版 Tutti(教育出版) | 副教材 | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| | 音楽活動の喜びを味わい、音楽や文化に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 | 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現を工夫し、表現意図をもっている。 | 自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。 | 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。 |
| 評価方法 | ・授業態度、忘れ物等 ・観察 | ・実技テスト+定期テスト ・ワークシート ・ノート ・発表 | ・実技テスト（各学期毎） | ・定期テスト(期末テスト2回、学年末テスト) |

| 学年 | 学習単元 | 学習方法 | 評価のポイント |
|----|--|--|--|
| 1年 | <p>〈歌唱〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌 ・複数の楽曲 <p>〈器楽〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー <p>〈和楽器〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三味線 <p>〈楽典〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音価 ・拍子とリズム ・大譜表と音名 ・音程 <p>〈鑑賞〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽 | <p>○校歌をはじめ、歌いやすく親しみやすい楽曲を選曲し、それぞれの楽曲に合う発声、表現の仕方を工夫し、のびのびと歌うことを心掛け歌唱する。</p> <p>○独奏および二重奏を取り組む。</p> <p>○運指をマスターし、基本的な奏法（タンギング・スラー等）を身に付け、演奏する。</p> <p>○日本の伝統音楽である楽器の一つ、三味線を実際に手に取り、音を出して体験をする。</p> <p>○三味線の基本的な奏法（構え方、バチの持ち方、演奏姿勢、音の出し方等）を身に付け、演奏する。</p> <p>○音符・休符の種類と音価を理解する。</p> <p>○拍子記号の意味を理解し、リズム譜の区切りが分かるようにする。</p> <p>○音程は、度数の教え方、全音半音を利用した2音間の隔たりの表し方を理解する。</p> <p>○時代と共に変わりゆく音楽の良さを味わい、各時代の音楽を鑑賞する。</p> | <p>○校歌の歌詞を理解し、大きな声で歌えているか。</p> <p>○意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>○運指を的確に理解し、曲をスムーズに演奏できているか。</p> <p>○周り合わせながら演奏しているか。</p> <p>○基本的な奏法が理解できているか。</p> <p>○楽譜の記号と奏法を理解できているか。</p> <p>○音符・休符・拍子の名称や意味を理解しているか。</p> <p>○度数の教え方を理解し、2音間の隔たりを書き表せるか。</p> <p>○歴史や作曲者について理解しているか。</p> |

平成29年度 芸術科：書道 I

| | | | | |
|---------|---|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|
| コース・単位数 | 1年：全コース（2単位） | | | |
| 学習の到達目標 | 書を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、書写能力を高め、基礎的な能力を伸ばす。 | | | |
| 教科書 | 書道 I（教育出版） | 副教材 | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 |
| | 漢字の書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち取り組むか | 書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら表現工夫をするか | 感性を働かせながら自らの意図に基づき構想し、表現を工夫しているか | 創造的な書表現をするために基礎的な能力を生かし効果的に学ぶことができるか |
| 評価方法 | ・学習活動への参加の仕方や態度 ・「学習のまとめ」内容 | ・提出作品 ・定期テスト | ・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」記入状況 | ・定期テスト ・作品ファイル ・「学習記録」記入状況 |

| 学年 | 学習単元 | 学習方法 | 評価のポイント |
|----|--|--|--|
| 1年 | <p>漢字の書（楷書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九成宮禮泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 <p>漢字の書（行書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘭亭序 ・風信帖 <p>書道史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書体の変遷 ・楷書の学習 ・行書の学習 <p>篆書の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泰山刻石 <p>隷書の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曹全碑 <p>硬筆の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペン字 ・はがき・便せん ・筆順・誤字 <p>仮名の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓬莱切 ・高野切 <p>作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色紙 ・半切2分の1 | <p>楷書成立と背景を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背勢の原理を理解する。 ・向勢の原理を理解する。 ・褚法の具体的な説明を理解する。 <p>行書の名品、完成された姿を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の空海の筆力に満ちた変化に富む書風を味わう。 <p>漢字書体の篆書・隷書・草書・行書・楷書に大別される書体の変遷を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典として尊ばれている名筆の特性や個性などを比較、鑑賞する。 <p>原初的な書体である篆書（小篆）の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篆書の点画が直線化され、簡略化された書体の特徴を理解する。 <p>筆記具と筆記法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆順、字形などの特徴を理解した上で実践・実技を行う。 <p>平仮名、カタカナは漢字から生まれた独自の文字であることを理解し、単体・変態・連綿更には古典作品の臨書に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ古典作品の特徴を踏まえ好きな漢詩や言葉などを半切や色紙に書いてみる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・起筆・送筆・終筆が丁寧に書かれているか。 ・字形・止め・払い・反りなどの基本点画が書けるか。 <p>楷書と比べて行書の特徴・省略などをとらえているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点画の基本的な省略・筆脈が理解できているか。 <p>どのような変遷をたどって現在の書体に移行したのかが理解できているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波たくを力強く押し出して書けているか。 ・切れ味のある力強い線が引けたか。 <p>文字の字形、筆順を正しく認識し書けているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の正しいくずしかた、点画の省略があることが理解されているか。 ・古典作品のにおいが作品の中に見受けられるか。 |

